

# U.S. Indicators

発表日: 2023年7月25日(火)

## 米国 インフレーションに向けた需要の鈍化示唆(7月PMI)

～製造業が上昇もサービス業の低下によって民間需要の拡大ペース鈍化～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年7月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、52.0(前月53.2)と拡大縮小の分岐点である50を5カ月連続で上回ったものの、前月比で1.2%低下し市場予想の53.0(筆者予想53.4)を下回った。3、5月の米中堅銀行の破綻を受けた信用状況の引き締めや市場金利の再上昇の影響もあり、同統計調査対象企業の活動は、サービス業を中心に低下した。インフレの鎮静化を促すために必要と考えられる民間需要の拡大ペース鈍化が示唆された。

製造業は49.0(前月46.3)と新規受注の大幅な上昇により前月比2.7%上昇した。グローバルな製造業部門の調整継続、先行き懸念が残存しているが、米国内需要の底堅さ、在庫調整の進展等により、製造部門が調整幅を縮小した。一方、サービス業は、52.4(前月54.4)と内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に6カ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回った。しかし、信用状況の引き締まりの影響が徐々に顕在化しているとみられ、前月比2.0%p低下し、サービス業の拡大ペース鈍化が示された。

雇用関連では、製造業が上昇した一方、サービス業が低下したことによって、雇用の増加ペース鈍化が示唆された。インフレ関連では、投入価格指数が低下したものの、産出価格指数が上昇しており、鈍いインフレ低下の継続が示された。製造業では、産出価格指数が50.2(前月50.2)と下げ渋ったうえ、投入価格指数が50.6(前月47.2)と上昇に転じており、消費者段階で財価格の低下圧力が弱まる可能性がある。また、サービス業では、投入価格が58.8(前月63.1)と低下したが高い水準で下げ渋っているもと、産出価格指数が56.6(前月55.9)と上昇し、サービス価格の鈍い低下を示唆した。

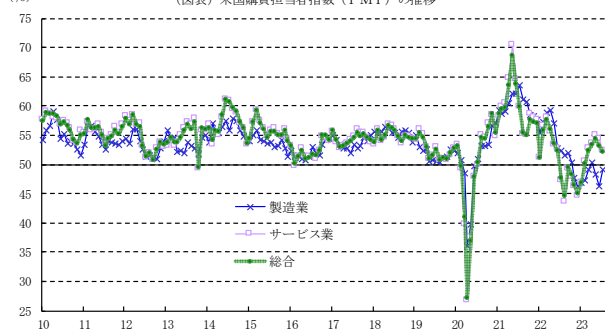
製造業では、雇用が52.8(前月52.3)、生産が50.2(前月46.9)、新規受注が48.5(前月42.9)、在庫が45.0(前月42.3)と上昇した。寄与度では、入荷遅延が前月比▲0.15%の押し下げ寄与となった一方、新規受注が前月比+1.67%、生産が前月比+0.84%、在庫が前月比+0.27%、雇用が前月比+0.09%の押し上げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が52.4(前月54.4)と信用状況の引き締まりの影響が徐々に顕在化し、低下したほか、雇用が51.0(前月52.2)と低下し、雇用の拡大ペース鈍化が示された。また、新規受注が52.5(前月55.5)、見通しを示す「将来の活動指数」が62.9(前月69.9)と高い水準ではあるが、大幅に低下するなど、サービス関連企業は先行きに対して慎重な見方を強めつつあり、サービス業活動の鈍化の継続が示唆された。

基調をみると、総合PMIは7月に52.0と米企業活動の拡大を示す水準を維持したが、4-6月期の53.6(1-3月期49.7)から低下しており、米民間最終需要の減速を示唆している。製造業が49.0(4-6月期48.3)と上昇した一方、サービス業が52.4(同54.3)と低下した。7-9月期の民間最終需要は、サービス業の鈍化を受け、緩やかな伸びにとどまると予想される。

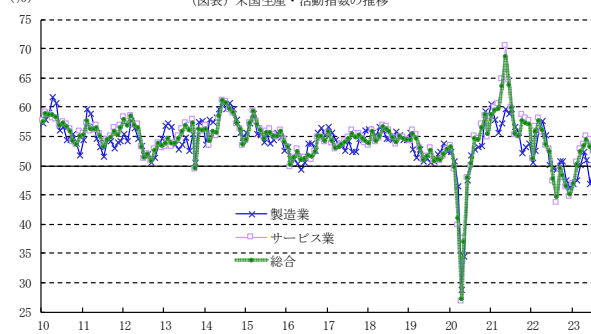


(図表) 米国購買担当者指数 (PMI) の推移



(出所) S&amp;P Global

(図表) 米国生産・活動指数の推移



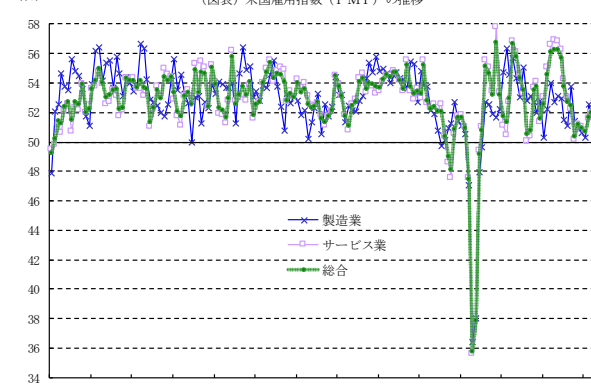
(出所) S&amp;P Global

(図表) 米国新規受注指数 (PMI) の推移



(出所) S&amp;P Global

(図表) 米国雇用指数 (PMI) の推移



(出所) S&amp;P Global

(図表) 米国産出価格指数 (PMI) の推移



(出所) S&amp;P Global

(図表) 米国投入価格指数 (PMI) の推移



(出所) S&amp;P Global

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。